



雪音

さいたま市立大成中学校 学校だより

1月号 令和8年1月8日

令和8年のスタートにあたって

校長 福田博志

新年を迎えました。昨年中、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

今年の干支（えと）は、丙午（ひのえうま）です。私の干支でもあります。丙午は、十干（じっかん）の「丙」と十二支（じゅうにし）の「午」が組み合わさった干支の一つで60年に一度巡ってきます。火の要素を二重に持つことから情熱や変化・転換を象徴する年とされています。「熱意ある行動力で困難を乗り越える」「すさまじい勢いで、未来を切り開いていく」といった躍動感が感じられます。情熱をもってエネルギーに走り抜ける年にしていきたいものです。



今年の元日も、私は大成中学校の校庭で「初日の出参拝」を試みました。まだ真っ暗な校庭に到着し、絶好の「初日の出」観覧ポジションを確保しようとした。しかし、かなり冷え込んでいたので「初日の出」の時刻まで、ランニングや体操をして身体を温めました。

冷気に包まれた元日の空気の中、やや曇りがちでしたが、やがて上空は、漆黒から紫色に染まり、校舎や普門院の境内の樹木の境目がゆっくりと雲の間から黃金色に輝き始めました。空色と雲に反射した黃金色のグラデーションカラーがエフェクトし、ものすごくきれいでいた。大成中の校庭からは、やや雲に隠れてしまい、完璧な「初日の出」を見ることはできませんでしたが、今年も穏やかに「初日の出」を拝むことができ、たいへんうれしく思いました。

本校は、令和8年で開校80年を迎える伝統校です。さらに地域には、歴史的文化に関する史跡が数多く残っています。中でもすぐ隣に鎮座する創立600年を誇る「普門院」は2027年のNHK大河ドラマ『逆賊の幕臣』の主人公である小栗上野介（忠順）氏の先祖である小栗忠正氏一族の菩提寺でもあります。この地域の歴史的文化を身近に感じながら中学校生活を送ることは、たいへん意義深いことであります。

大成中学校は地域の中の学校として、これからも地域とともに歩んでいきます。皆様、よろしくお願ひいたします。いつも成中生の皆さんか心を込めて磨いていくので、とても気持ちの良い学校となっています。

今年も大成中学校に関わる全ての皆様が幸せな毎日を送れますように！